

# いわて生活協同組合 環境活動報告書 2015年版 (2014年3月21日～2015年3月20日)

## 「脱原発」の方針をふまえた環境方針

### 環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらし続けています。

電気や化石燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は根本的に変えていくことが求められています。

いわて生協は、理事会で決定した「原発をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策へ」の見解と方針に基づき、国に対して原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また、自らも、原発にたよらない事業を継続するため、2020年までのCO<sub>2</sub>削減目標を持ち、再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進し、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」と人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動に取り組みます。

### 環境方針

1. いわて生協は、東日本大震災によりくらしの価値観が大きく変わったことをふまえ、従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。
  - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすため、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわして継続的な改善を積み重ねていきます。
  - (2) 資源を大切に活動を進め、組合員と一しょに資源節約とリサイクル活動をさらに強めます。またレジ袋の有料化へ向けて取り組みます。
  - (3) 常勤者・組合員それぞれが、節電と燃料の効率的な使用に取り組みます。
  - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発と利用普及や地産地消の活動をいっそう推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。
  - (5) 太陽光発電・風力発電・木質バイオマス発電をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、エネルギー効率のよい車両の導入を進めます。
  - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高めるためコープの森づくりをすすめます。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことへ寄与します。

2015年3月30日  
いわて生活協同組合  
理事長 飯塚明彦

# 地球温暖化防止の取り組みと結果

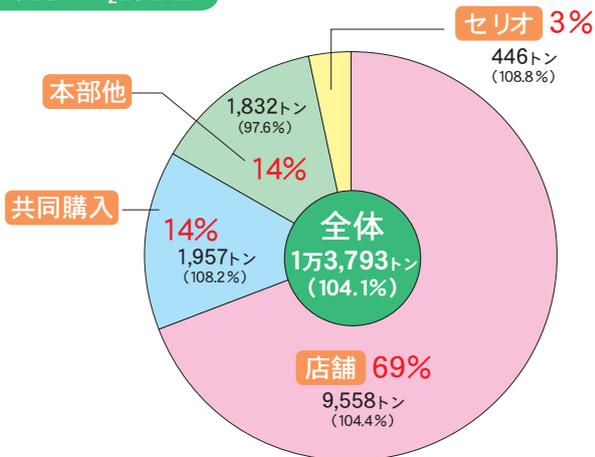
## CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量は、2005年度対比12.2%削減し目標達成

2014年度のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量は1万3,796トン(2005年度対比12.2%減)と2020年ビジョンで定めた2005年度対比10%削減の目標を達成しました。

2014年度は、全事業所での節電、太陽光発電の増設、空調機など施設設備の省エネ化をすすめてきましたが、新事業所の開設や事業伸長により、前年比ではCO<sub>2</sub>排出量は104.1%増加しました。2015年度も新事業所の開設を予定しており、CO<sub>2</sub>発生量は増加し、単年度では2020年目標を超える見通しです。

一方、2014年度は、風力発電に続き、野田村に建設予定の木質バイオマス発電への参加が決まりました。2016年には風力発電と木質バイオマス発電が稼働する予定で、2020年目標の達成に向けてCO<sub>2</sub>排出量削減の新たな道筋が広がりました。

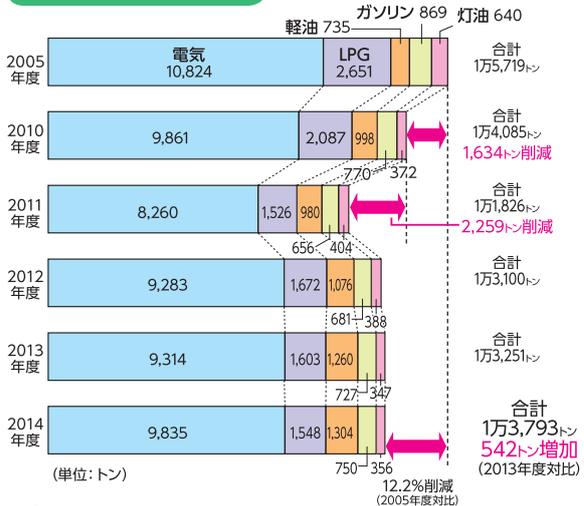
### 事業別CO<sub>2</sub>排出量



### いわて生協の地球温暖化防止CO<sub>2</sub>排出量削減目標

基準年	2005年度
目標	2020年までにCO <sub>2</sub> 排出量を基準年に対し10%削減する

### 発生源別CO<sub>2</sub>排出量



## 電気自動車4台で、CO<sub>2</sub>排出量5.3トンを削減

電気自動車は、排気ガスを排出しないので、排出ガス相当のCO<sub>2</sub>を減らすことができます。2014年2月、盛岡南センターに導入した電気自動車4台(6万4,000km走行)で、効率のよいガソリン車と比較して5.3トンのCO<sub>2</sub>削減につながりました。



満タン充電で1回300円。ガソリンの10分の1のコストで、経済的にも優れています。

## 2020年までに2005年度対比10%のCO<sub>2</sub>削減をめざして

2020年以降の地球温暖化抑制の枠組みについて話し合うCOP21が2015年12月に開催されます。

地球温暖化がすすむと21世紀末に日本は平均気温が最大で4度上昇し、大雨など「異常気象」が増加し、災害や穀物・水産資源への影響も心配されています。

いわて生協は、第7次中期計画で、2020年までに2005年度対比10%削減する目標を掲げて引き続き右記の取り組みを行います。

### 環境分野の第7次中期計画

- 事業分野でCO<sub>2</sub>削減を推進し、地球温暖化防止の社会的責任を果たします。
  - 2020年までにCO<sub>2</sub>排出量を2005年対比で10%削減します。
  - 環境保全型の国内農業の推進や環境配慮型商品開発と利用普及に取り組みます。
- 廃棄物の削減とリサイクルの徹底で循環型地域づくりに貢献します。
  - 廃棄物のリサイクル・有価物化を拡大します。
  - 店舗の生ゴミのリサイクルを広げます。
  - リサイクルセンターを建設します。
- 組合員とともに、環境にやさしい持続可能な暮らしと地域の環境保全に貢献します。
  - レジ袋の削減(有料化)に取り組みます。
  - コープの森を広めます。
  - 組合員や子どもたちの学習をすすめ、家庭でのCO<sub>2</sub>削減をすすめます。

# 原子力発電に依存しない 事業発展をめざす取り組み

## 電気使用量は前年比106% 2010年度対比では16%の減少

いわて生協では、東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原子力発電をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換」を求めています。自らも、原子力発電に依存しない事業をすすめようと、電気使用量を2010年度対比17%削減（2010年度東北電力発電量に占める原子力発電の割合）の目標を掲げ、取り組みをすすめています。

2014年度の電気使用量は、2,325万kWhと事業拡大により前年比106%に増え、2010年度対比16%削減と、目標に1%及びませんでした。



### 空調機の効率化、節水装置導入、冷凍庫の減築などで施設・設備を省エネ化

2014年度は、セリオホール中野の空調機を効率化（CO<sub>2</sub>削減1.3トン相当）、ベルフ山岸・青山で節水装置導入（CO<sub>2</sub>削減2.3トン相当）、セットセンターでは盛岡南センター新築移転により冷凍庫を減築（CO<sub>2</sub>削減26トン相当）、介護・福祉センターの照明のLED化などで施設・設備の省エネ化を行ないました。

### ■常勤者の工夫による節電

事業	電気使用量 既存・前年比	おもな取り組み
店舗	100.4%	・搬入口扉からの外気温遮断 ・飲料ケース、製氷機の節電
共同購入	101.3%	・事務所空調の区分管理 ・蓄冷材凍結庫の週末運転管理
本部	96.1%	・事務所照明の時間管理 ・融雪装置の気温対応管理
セリオ	113.7%	・利用実態に対応した照明管理
介護・福祉	96.2%	・調査にもとづく節電計画による不要電源カットと照明等の節電



事務所や休憩室での節電を徹底しています。



### 太陽光発電は503kWに増え、 年間発電量は前年比2.8倍に。

2014年度は、ベルフ八幡平、コープ関コルザ、盛岡南センター、宮古センターの4事業所に太陽光発電を設置。合計13業所503kWとなり、2014年度発電量は37万kWhで前年比285.6%となりました。CO<sub>2</sub>換算では、160トン削減に相当します。

### ■太陽光発電を13事業所に拡大

稼働開始年度	事業所名	設置規模(kW)
2007	セリオホールみたけ	10
2010	釜石センター	20
2011	セリオホールみやこ	10
2012	ベルフ牧野林	49
	久慈センター	20
	けせんセンター	20
2013	ベルフ山岸	49
	県南センター	31
	セリオホール牧野林	16
2014	ベルフ八幡平	99
	コープ関コルザ	80
	盛岡南センター	74
	宮古センター	25
合計		503



ベルフ八幡平に設置した太陽光発電。店舗への設置は、県内流通業で先進的な取り組みです。

## 風力発電に続き、木質バイオマス 発電に参加



### いわて生協・みやぎ生協・コープあきたと 共同で

みやぎ生協・コープあきたと3者共同で2,500kWの風力発電3基を秋田県に建設し、2016年度稼働をめざし準備がすすんでいます。CO<sub>2</sub>の削減量は、いわて生協の2005年排出量の19%に相当し、今後いわて生協の事業が拡大しても、CO<sub>2</sub>削減2020年目標達成が見通せるようになります。



### 地元の雇用創出や林業の持続的発展にも 寄与

野田村に建設が始まった森林資源を燃料にした発電事業に、いわて生協をはじめ、日本生協連・みやぎ生協・コープ東北サンネット事業連合が参加することになりました。2016年稼働で一般家庭2万6,800世帯の電気使用量に相当する発電を予定し、いわて生協でも電力を購入する予定です。



2015年3月、建設予定地にて起工式を行いました。

# 持続可能な地域社会をめざして 2014年度のおもな取り組み(1)

## 組合員からのリサイクル回収量は 3,484トン

組合員のリサイクル活動は、空き缶(アルミ缶・スチール缶)が増加し、共同購入チラシは横ばい、紙パック・トレイ・卵パック・ペットボトルが減少しました。

容器や古紙など、組合員参加のリサイクル回収量は3,484トン(前年比105.2%)となっています(詳細は25ページ)。

なお、紙パックと共同購入チラシの回収売却代金の一部は、コープの森基金に使用しています(23ページ参照)。

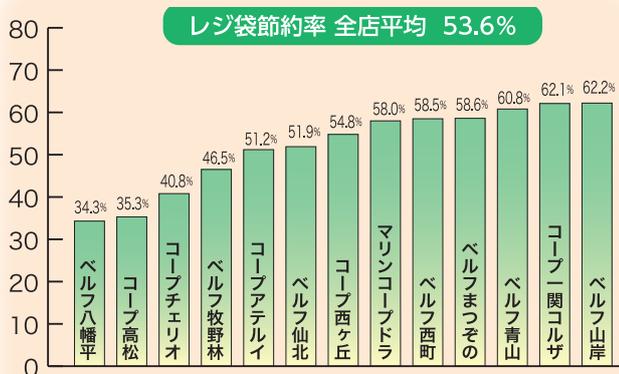
## レジ袋節約率は53.6% 世界環境デーには92.5%に!

レジ袋節約(マイバッグ持参)率は、2014年度3月度53.2%(昨年度54.2%)、年間平均も53.6%でした。

6月5日「世界環境デー」は「マイバッグ持参の日」として、レジ袋節約を目標に取り組みました。店内放送やレジでの声かけ、リサイクル(再利用)袋のご案内などにより92.5%の方にレジ袋節約に協力いただきました。



マイバッグ持参の日は、リサイクル(再利用)袋の利用もおすすでした。



節約できたレジ袋(2014年度)	632万枚
石油節約効果推計(2014年度)	11万5,459ℓ (18ℓ缶で6,414缶)
CO <sub>2</sub> 削減効果推計(2014年度)	24万3,311kg

## 古紙回収機を3店に増設し 4店舗で330トンを回収

2014年度、コープ関コルザ・マリンコープドラ・コープアテルイに古紙回収機を増設し、設置店舗はベルフ仙北と合わせて4店舗になりました。2014年度はのべ2万5千人が利用し、330トンを回収(前年比175%)しました。



「お買い物のついでに持ってこれて便利」と好評です。

## 家庭用の使用済み揚げ油 2万3,000リットルを回収

使用済み揚げ油の回収量は、2万3,000リットル(前年比101.5%)でした。使用済み揚げ油を精製したBDF(バイオディーゼル燃料)の使用量は、2万4,730リットル(前年比89%)でした。これは、新しいトラックがBDFを燃料として使用することができず、また使用できる旧型トラックも17台に減ったためです。

## 生ごみでガス発電、5トンの CO<sub>2</sub>削減に

店舗の生ごみは、320トンがリサイクルされました。盛岡・滝沢地区店舗は小岩井農場(バイオパワーしずくいし)で発酵ガス発電や液肥の原料として81トンが活用されています。奥州市のコープアテルイではオーガニック金ヶ崎で堆肥の原料として25トン、宮古市のベルフ西町と一関市のコープ関コルザでは、動物の餌に11トンが再利用されています。その他に魚のアラや惣菜の油は、飼料や肥料の原料として170トンが再利用されています。

**2014年度食品リサイクル率 59%**  
食品リサイクル率は、法律で45%以上が目標です。

## ペットボトルキャップ回収の益金 5万4,532円をユニセフ募金に

店頭で回収しているペットボトルキャップ。2014年度は4.1トン回収し、その益金5万4,532円を日本ユニセフ協会への募金としました。

# 持続可能な地域社会をめざして 2014年度のおもな取り組み (2)

## 「できることからECOアクション賞」を受賞

「温暖化防止いわて県民会議」から、優れた地球温暖化対策活動を行っている事業所として、参加した180事業所の中からいわて生協が受賞しました。



副理事長の内澤祥子が岩手県千葉茂樹副知事より、表彰状を授与されました。

## 「エコショップいわて」で、店舗事業とベルフ牧野林が受賞

岩手県が推進する「エコショップいわて」（認定店240店）の中でも、他の模範となる優れた取り組みをしていると評価され、表彰されました。

受賞部署	表彰名	評価された点
店舗事業	総合表彰	各店舗で総合的にごみ減量とリサイクルに取り組んでいる
ベルフ牧野林	部門別表彰	廃棄物排出量が削減された

## エコ棺ご利用による植樹は約6千本に

葬祭事業「セリオ」では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。この「エコ棺」は管理された森林から採取した木材を利用した特殊三層構造の紙製。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時のエネルギーとCO<sub>2</sub>排出量は半分に低減されます。また、1棺利用ごとに大きめな苗木1本がモンゴルで植林されます（2011～2013年度は1棺利用ごとに小さな苗木を10本植林）。

2014年度は1,055件の葬儀のうち178件（16.9%）、累計では1,109件となり、植林は5,958本となりました。

## 「チャレンジ冬の省エネ」に301人が参加

エネルギー使用の多い冬の省エネを組合員に広げようと「チャレンジ！冬の省エネ」に取り組み、301人から応募がありました。



店舗の環境活動を体験しながら学ぶ「エコエコ探検隊」には2回の企画に計72人が参加しました。

## 生母生産森林組合と「第2のコープの森づくり」がスタート

岩手の豊かな自然を残していこうと、2010年から組合員参加で取り組んでいる「コープの森づくり」。一つ目の「コープの森inくずまき」は、5回目の植樹を2014年6月に葛巻町で実施。組合員・常勤者90人が参加し、トチノキなど300本を植樹し、委託分と合わせると5年間で1万1,000本になりました。

2014年度は、第2のコープの森として「コープの森inまえさわ生母～イロハモミジの森づくり」が奥州市前沢区でスタートしました。7月の下草刈りに組合員50人が参加、11月の第1回植樹には、組合員・常勤者90人が参加しました。



第2のコープの森「第1回植樹」では30本のイロハモミジの苗木を植樹しました。

## 「コープの森基金」の収入は209万円と昨年より増加

2012年5月に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した牛乳パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木1本募金」を積み立てています。2014年度の収入は209万円（2013年度201万円）と増えました。基金は、植樹や森の手入れ、イベントなどの費用に活用しています。

### ■ 2014年度「コープの森基金」収支報告

苗木1本募金	23万7,394円
回収した牛乳パック・共同購入チラシ売却代金	172万790円
協賛金（コココーラ様・花王様）ほか	13万6,859円
計	209万5,043円
植樹費用	340万3,559円
計	340万3,559円
残	-130万8,516円

※第2のコープの森整地費用と調印式費用156万円が初年度のみ費用として計上されており、次年度より単年度収支も黒字の計画です。  
※コープの森基金2014年度末残高は、384万2,039円となりました。

### 協賛企業を募集しています！

「コープの森づくり」を支えていただく企業を募集しています。ぜひご協賛ください。

# 持続可能な地域社会をめざして 2014年度のおもな取り組み (3)

産直商品やアイコープ商品の利用普及は地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、輸送にかかるエネルギーが少ないことからCO<sub>2</sub>の削減にもつながります。

## 農産チーム 「顔とくらしの見える産直品」の普及 交流と情報強化で、 供給高は6億6,990万円に

産地交流の回数と人数が増えて、交流内容も体験型に変わり、そのことを伝えた産地商品が利用に繋がりました。また、個店産直でのコメントカードの取り付けが前進し、産直収穫祭では個店産直の直売会も賑々しく実施されました。



2014年8月、宮古コープの組合員40人が今松野菜生産組合（岩手町）でとうもろこしの収穫を体験しました。

## 水産チーム 産直品・アイコープ商品の普及 被災メーカーの復興支援を継続し 1億6,400万円の供給高に

「産直真崎わかめ」は、相場安の影響で供給高は前年より減少しましたが、たくさん食べていただく取り組みにより、利用量は、過去最高だった前年並となりました。

アイコープ商品については、7品目の開発・改善商品に加え、アイコープ生かき2品目が復活し、前年を上回る利用となりました。



㈱キマル木村商店（宮城県石巻市）に製造委託している「アイコープ生かき」は、2014年11月に復活。

## 畜産チーム 産直畜産品の普及 メニュー提案で、 供給高は8億1,890万円に

畜産産直品の利用は、8億1,890万円（目標比111.5%）と大きく伸長しました。豚の病気により肉の市況が高くなりましたが、メニュー提案や簡便商品の開発・おすすりが利用につながりました。お手軽惣菜の素など日配グロサリー商品と連動した料理提案や関連陳列は組合員に好評でした。

産直肉を使ったメニュー提案を売り場から発信し、好評でした。



## 惣菜チーム 県内産食材を利用した惣菜の供給拡大 2億9,970万円の供給高に

県内産食材を利用した惣菜供給高は2億9,970万円（目標比101.6%）でした。店舗では毎月コンテストを実施し、県内産食材を使った商品普及に常勤者の知恵をこめて取り組みました。開発商品では、「お好み焼き・焼きおにぎりセット」が好評でした。

## 日配・グロサリーチーム 産直品とアイコープ商品拡大 7億4,400万円の供給高に

日配・グロサリーチームの産直品とアイコープ商品の供給高は7億4,400万円（目標比92.3%）でした。消費税導入による買い控えの中で、日配部門では、豆腐・揚げ・納豆の製造が再開し利用が回復したことで、改善した「アイコープカステラ」が好評で利用が伸びていることが前進面です。



## 環境マネジメントシステム（EMS）の自主運営は6年目をむかえました

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム（EMS）の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電などより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

- 内部環境監査 21人の監査員が、2015年1月12日から1月31日まで、監査員会議で抽出した事業所およびシステム全体（環境マネジメント責任者および事務局）に対し実施。重大な不適合0件、軽微な不適合6件を指摘しすべて是正しました。また改善余地（要望）4件、推奨すべき優良事例33件を見出しました。
- 環境情報 環境に関わる苦情は2件ありましたが、対応完了しました。内訳は商品搬入時の騒音1件、さんさ踊り太鼓練習の騒音1件です。店舗の環境活動に関する学校からの見学は30件でした。

# いわて生協の環境負荷とリサイクルフロー

## エネルギー・資材の使用

### ■エネルギーの使用

電気	23,251 kWh
LPG	236,187 m <sup>3</sup>
灯油	143,172 L
ガソリン	322,960 L
軽油	496,791 L
車両LPG	65,043 L
ドライアイス	561,880 kg
水	127,584 m <sup>3</sup>

(委託車両を含む)

### ■資材の使用

#### 紙

コピー紙(A4版換算)	1,181万枚
コピー紙以外の紙	3,207トン

(共同購入・店舗チラシ・広報物など)

#### 容器・包装材

レジ袋	39,272 kg
ポリ袋	8,226 kg
トレイ(透明トレイ含む)	42,490 kg
ラップ	25,490 kg
共同購入シッパー内袋	15,611 kg

#### 車両の使用台数(359台)

ディーゼル・BDF車	200台
ガソリン車	153台
電気自動車	4台

(2014年4月現在：委託車両は含みません)

## 環境への排出

### ■大気への排出

NO <sub>x</sub> 排出量試算	170,681 kg
CO <sub>2</sub> 排出量	13,793 トン (前年度13,095 トン)

### ■廃棄物

一般廃棄物	732,259 kg
廃家電の排出(家電リサイクル法)	38台

### ■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2014年度	前年比
紙	90,918 kg	86.8%
びん・缶	70,443 kg	108.4%
発泡スチロール	52,722 kg	92.8%
発泡スチロール(減容インゴット化)	47,934 kg	97.7%
ダンボール	1,352,841 kg	99.0%
廃食油	22,596 kg	98.3%
魚アラ	156,963 kg	91.5%
肉脂	27,832 kg	77.3%
生ごみ	134,022 kg	98.5%
共同購入シッパー内袋	8,800 kg	109.1%
商品納品時フィルム	3,938 kg	72.4%
合計	1,969,007 kg (1,969 トン)	96.6%

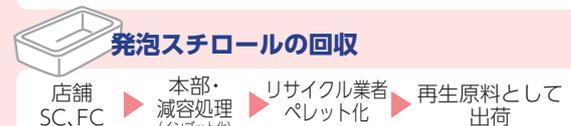
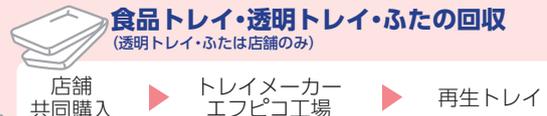
## 組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

<b>トレイ(発泡)</b>	41.7トン (97.3%) 833万枚 回収	トレイ 247万枚 に再生 この他、透明トレイ、ふたが19トン回収されています。
<b>ペットボトル</b>	96.5トン (95.9%) 160万枚 回収	トレイ 571万枚 に再生
<b>卵パック</b>	18トン (91.7%) 59万枚 回収	卵パック 59万枚 に再生
<b>紙パック</b>	47.2トン (95.3%) 141万枚 回収	トイレット ペーパー換算 約11万ロール に再生
<b>共同購入チラシ</b>	2,862トン (100.7%) 回収	アイコーわたしたちの リサイクルイレットロールに再生 約384万ロール に相当
<b>古紙</b>	330トン (同期間比175%) 回収	紙製品 に再生
<b>アルミ缶 スチール缶</b>	45トン (109%) 回収	アルミ・鉄製品 に再生
<b>廃食油</b>	2万3,202 L (101.5%) 回収	BDF(バイオ ディーゼル燃料) を作ります。 自前精製量 1万5,570 L

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

## いわて生協のリサイクルの流れ



# いわて生協の環境活動のあゆみ 1990～2014年

1990年 (いわて生協誕生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛乳パックの回収リサイクルを開始</li> <li>買い物袋節約スタンプ制開始</li> <li>印刷用紙、コピー用紙、名刺等の再生紙への切り替え開始</li> </ul>
1991年	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済みOCR用紙のリサイクルを開始</li> <li>食品トレイの回収開始</li> </ul>
1992年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始</li> <li>朝配達牛乳のビン容器化のテスト実施</li> </ul>
1993年	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝配達牛乳で紙パックからリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え</li> <li>レシート用紙が再生紙に</li> <li>包装ラップを非塩ビラップに切り替える実験</li> </ul>
1994年	<ul style="list-style-type: none"> <li>包装ラップを非塩ビラップに切り替え</li> <li>店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)</li> <li>ギフトの簡易包装紙を開発使用</li> </ul>
1995年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルの回収リサイクルを開始</li> <li>共同購入トラックにLPG(低NO<sub>x</sub>)を導入開始</li> </ul>
1996年	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始</li> <li>注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始</li> </ul>
1997年	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施</li> <li>盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定</li> </ul>
1998年	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用</li> <li>回収した商品案内チラシを原料にトイレットペーパーを商品開発</li> </ul>
1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)でリターナブルビン容器使用</li> <li>ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始</li> </ul>
2000年	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内流通業で初めてISO14001規格の外部認証取得</li> <li>LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成</li> <li>マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始</li> </ul>
2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いわて大環境祭」に出展参加</li> <li>印刷物に大豆インキを採用</li> <li>遺伝子組換え原料・飼料の排除のとりくみ本格化</li> </ul>
2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更</li> <li>共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル</li> </ul>
2003年	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物袋節約率が30%を超える</li> <li>奥州市コープアテルイで生ごみの堆肥化リサイクルを開始</li> </ul>
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了</li> </ul>
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)</li> <li>「森林(もり)を守る募金」開始(以後4年間で県内環境団体へ150万円贈呈)</li> </ul>

2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>セリオホールみたけに太陽光発電1基目を導入</li> <li>共同購入トラックでBDF使用開始(6台)</li> </ul>
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>PPバンド、ストレッチフィルムなど廃プラスチックのリサイクル拡大</li> <li>買い物袋節約率45%に到達。50%をめざす新目標を決定</li> </ul>
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成</li> <li>共同購入トラックで燃費改善のとりくみ開始</li> <li>買い物袋節約率が51%となり店舗利用者の過半数の節約率を実現</li> </ul>
2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部構内にBDF精製施設を設置</li> <li>透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始</li> <li>盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始</li> </ul>
2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コープの森づくり」活動スタート。葛巻町で第1回の植樹実施</li> <li>BDF使用が本格化し全センターで24台がBDFで走行</li> <li>県「エコショップ」制度で「特別表彰」(模範的事業活動に対して)を受賞</li> <li>3回目の更新審査合格を機にISO14001を終了。独自EMS運用へ</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の使用済み揚げ油回収スタート</li> <li>セリオホールみやこ開設、2基目の太陽光発電導入</li> <li>低炭素杯2012で特別賞受賞(震災時のBDF活用が評価された)</li> <li>イオングループ3社と共同で、レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県と岩手県市町村清掃協議会へ提出</li> </ul>
2012年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コープの森づくり基金」設立</li> <li>久慈支部、けせん支部、ベルフ牧野林に太陽光発電設置</li> <li>「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート</li> <li>県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>セリオホール牧野林、ベルフ山岸、県南センターに太陽光発電設置</li> <li>3生協による風力発電共同事業に基本合意</li> <li>「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞</li> <li>県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰</li> <li>電気自動車4台を盛岡南センターに導入</li> <li>奥州市での「第2のコープの森づくり」に調印</li> </ul>
2014年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関コルザ・マリンコープドラに導入。</li> <li>「マイバッグ持参の日」に、レジ袋節約率92.5%と過去最高を達成</li> <li>「できることからE C Oアクション賞」受賞</li> <li>県「エコショップ」制度で、店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰</li> <li>野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加</li> </ul>